

平成20年4月28日

ブロック理事
県小連チーム 各位

山口県小学生バレーボール連盟
審判委員長 下 瀬 昌 巳

平成20年度日本小学生バレーボール連盟審判研修会復伝

- 1 ルール改正点・修正点 ※今年度は大きな変更等はない。
 - (1) サービス後のボールがサービング・チームの競技者に触れるか、許容空間を通り、ネット垂直面を完全に通過しないときは、主審は公式ハンドシグナル⑱（競技者のタッチ・ネット、サービングボールがネットに触れ、ネットを越えないとき）を用いる。副審も追従する。
 - (2) タイム・アウトの要求を確認したら直ちに吹笛をして、ハンド・シグナルを示す。その後、計時（30秒間）をする。なお、主審はタイム・アウト及び競技者交代のハンド・シグナルを追従する。
 - (3) 軽度な不法な行為は罰則の対象ではない。この場合、主審はゲーム・キャプテンを通じてチームに警告を与え、当該スタッフ・選手に手を挙げさせる。但し、一般と小学生では取り扱いが違うので注意すること。
 - (4) 線審の責務として、競技者がボールをプレーしているとき、または、プレーを妨害しようとしてアンテナに触れたとき、線審はフラッグ・シグナル④（アンテナ外側通過、またはサーバーのフットフォールト）を用い、どちらのチームがアンテナに触れたか合図を送る。
- 2 審判をする上での重点項目
 - (1) ネット下から相手のコートへの侵入について、反則とわかっていながらも判定しない場合があるので、反則が起きたらタイムリーに判定する。
 - (2) ダブル・フォールトや審判の判定ミスでノーカウントになった場合はラリーはやり直しとなるが、この場合、ラリーは完了していないため、タイム・アウトや競技者交代の要求はできない。但し、ラリー中に選手が負傷してノーカウントになり、競技者交代をしなくてはならなくなったときは、競技者交代を認めるが、タイム・アウトは認めない。ノーカウントには隣コートからボールが入ってきたり、停電になること等も含む。
 - (3) 副審の責務として、相手側コートへ送るボール全体またはその一部が副審側の許容空間外側を通過して、相手側フリーゾーンに向かっていくボールが、3本目であるときは、許容空間外側を通過した（ネット垂直面にかかった）

時点で吹笛をする。

- (4) 複数の競技者交代の場合、組合せの中で競技者交代が遅れたり、不法な競技者交代のとき、その交代は制裁なしで拒否できる。
- (5) 審判をする上で、公平かつ公正でなければならない。特に地方大会等の相互審判をする上では最も重要である。併せて、安全面も含め子供たち（選手、審判等）を守ってあげる心配りも大事である。
- (6) チーム役員（監督、コーチ、マネージャー）のベンチでの行動（マナー）については、言葉の暴力や相手を威嚇する行為等も含めルール違反にならないよう注意（指導）する。
- (7) スクリーンの反則について、反則になる可能性がある場合には、当該チームのキャプテンを呼び、該当する競技者の番号や位置を明確に伝え、スクリーンにならないよう指導をする。但し、この指導後に形成されたスクリーンの上をボールが通過したときには反則を適用する。

3 その他

- (1) 山田審判委員長より、日小連審判規則委員会として次のことを説明された。
 - ① 運営基本方針に、今年度より男女共同参画社会の考え方を踏まえ、若年層の人材発掘、若手審判員の育成に重点を置くとともに、指導的役割を果たすベテラン審判員の技術向上に努める。
 - ② 具体的な方策として、各ブロックでの研修会を活用して審判員が積極的に多くの機会を得て研修を深める。
 - ③ 小学生連盟所属の審判員の一人として、JVAメンバー制度に積極的に参加する。